

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-285094

(43)Date of publication of application : 11.10.1994

(51)Int. CI.

A61C 19/02

A61C 19/00

(21)Application number : 05-105005 (71)Applicant : IKEJIRI RYOJI

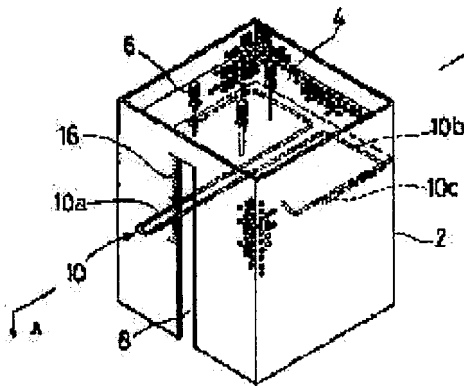
(22)Date of filing : 06.04.1993 (72)Inventor : IKEJIRI RYOJI

(54) DENTAL IMPLEMENT HOUSING CASE

(57)Abstract:

PURPOSE: To perform the setting of reamer length adjustment at the time of use and the disinfection and storage after use, while keeping it in a case.

CONSTITUTION: A middle plate with which the tip of a reamer 6 comes into contact can be moved up and down. A side plate 2 has gradations 16 which shows the height of the middle plate. Further, the entire device is formed by the material durable for the disinfections such as by a drug solution, ultrasonic wave, and



sterilization in autoclave. Except the middle plate, the entire device is preferably formed with a multiporeous or net-like material.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 04.04.2000

[Date of sending the examiner's
decision of rejection]

[Kind of final disposal of
application other than the
examiner's decision of rejection or
application converted registration]

[Date of final disposal for
application]

[Patent number] 3382996

[Date of registration] 20.12.2002

[Number of appeal against
examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against
examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本特許庁(JP)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-285094

(43)公開日 平成6年(1994)10月11日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 C 19/02		7108-4C		
19/00		7108-4C	A 6 1 C 19/ 00	J

審査請求 未請求 請求項の数2 F D (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平5-105005

(22)出願日 平成5年(1993)4月6日

(71)出願人 593085299

池尻 良治

大阪府豊中市新千里西町3の16の6

(72)発明者 池尻 良治

大阪府豊中市新千里西町3の16の6

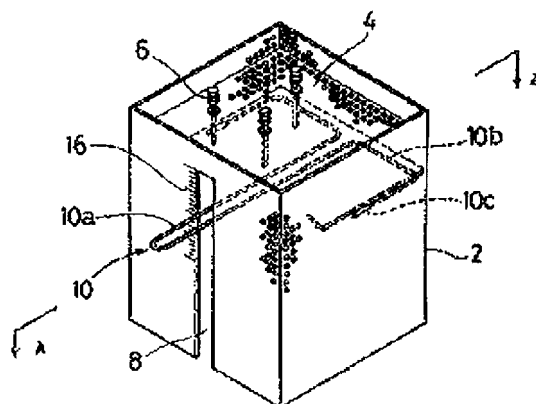
(74)代理人 弁理士 竹内 卓 (外1名)

(54)【発明の名称】 歯科用器具収容ケース

(57)【要約】

【目的】 使用時のリーマーの長さ調節設定および使用後の消毒・保管を一つのケースに入れたままで行なう。

【構成】 リーマー(6)の先端が接する中板(14)が上下移動可能であり、側板(2)には中板(14)の高さを知ることのできる目盛(16)がついている。さらに、全体が薬液、超音波、オートクレーブその他の消毒に耐えられるような材料から形成されている。中板(14)を除き、全体を多孔状またはネット状の材料から形成するのが好ましい。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 側板(2)と、この側板(2)によって支持されると共に、リーマーやファイルを差し込む穴を有する端板(4)を有する歯科用器具の収容ケースにおいて、

リーマーやファイルの先端が接する中板(14)と、この中板を上下させる手段(10)を設けると共に、側板(4)には中板(14)の高さを知ることのできる目盛(16)をつけ、全体が薬液、超音波、オートクレーブその他の消毒に耐えられるような材料から形成したことを特徴とする歯科用器具収容ケース。

【請求項2】 中板(14)を除き、全体を多孔状またはネット状の材料から形成した請求項1記載の収容ケース。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は歯科用器具の収容ケースに関する。特に、リーマー、ファイルなどの根管治療に用いる小型器具に関して、使用時の長さ調節設定、使用後の消毒・保管を一括して行なうことのできる収容ケースに関する。

【0002】

【従来の技術】リーマーやファイル(以下、単に「リーマー」という)は歯科区が根管拡張に使用するまち針に似た器具で、刃形、太さ、長さに応じて数種類ある。その針部分には、歯科区が患者の罹患歯における根管の長さの目安とするストッパーリングがスライド可能に設定されている。ストッパーリングの位置を調節設定するには、エンドゲージと呼ばれる、目盛のついた器具が使用されることが多い。

【0003】リーマーには患者の唾液や血液が付着するので、病気の伝染を防止するために頻りに消毒しなければならない。この目的のために、使用後のリーマーは水洗した後、薬液消毒、超音波洗浄、オートクレーブ(高压蒸気滅菌)の順で消毒滅菌処理をしている。歯科医院では、毎日大量のリーマーを使用するので、その消毒滅菌作業には多大の労力と時間を費している。

【0004】このようにして消毒の終わったリーマーは、次の使用に備えて、収容ケースに収容される。この収容ケースは多数の穴を備えた端板を有する小さなケースであることが多い。これらの穴にリーマーを差し込んで縦方向に保管収容する。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】上記したように、リーマーには使用時の長さ調節設定、使用後の消毒・保管という作業が必要である。従来、それぞれの過程において、別の器具を使用していたので、リーマーをいちいち取り出しては元に戻すという工程を繰り返していた。また、それぞれの工程に用いる器具、とりわけエンドゲージは精密で高価である。

【0006】本発明においては、使用時のリーマーの長さ調節設定、使用後の消毒・保管を一つのケースに入れたままで行なうことのできるような収容ケースを提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成する本発明の収容ケースは、側板と、この端板により支持されると共に、リーマーを差し込む穴を有する端板からなる収容ケースであって、リーマーの先端が接する中板と、この中板を上下させる手段を設けると共に、側板には中板の高さを知ることのできる目盛をつけ、全体が薬液、超音波、オートクレーブその他の消毒に耐えられるような材料から形成したことを特徴とする。

【0008】その他、本発明にとって必須ではないが、底板と開閉自在な蓋を取り付ける方が好ましい。底板は強度をあげるため、蓋は保管時のほこり徐けのためである。

【0009】全体は、薬液、超音波、オートクレーブその他の消毒に耐えられるような材料、例えばステンレス鋼板から作成する。中板と蓋を除き、多孔状またはネット状であるのが好ましい。中板はリーマーの先端が接する必要があるため、穴のない板状のものであり、蓋はほこり徐けの意味があるので、やはり穴のない板状のものである。側板及び端板が多孔状またはネット状であることは、端板にリーマー固定用の穴を改めてあける必要がなくなることで、網目を通して薬液が中まで浸透しやすくなること、リーマーの先端が中板に達したことが触覚だけでなく、網目を通して肉眼で確認できることなどの点で有利である。

【0010】中板を上下移動させる手段としては、例えば、側板から突出した取っ手により幅の拡張縮小が容易な弾力針金を使用することができる。その他、歯車やねじを使用することにより、中板を精密に上下移動させる機構を採用することもできる。

【0011】

【作用】本発明によれば、リーマーの先端が接する中板が上下移動可能であり、側板には中板の高さを知ることのできる目盛がついているので、リーマーの長さ調節が容易である。さらに、全体が薬液、超音波、オートクレーブその他の消毒に耐えられるような材料から形成されているので、そのまま消毒滅菌ができる。

【0012】

【実施例】以下、添付の図面に基づき、本発明の実施例を説明する。図1は、本発明の実施例に係る収容ケースの斜視図である。

【0013】全体は、縦横高さ約5cmの立方体である。もちろん、全体の形状は立方体以外にも、直方体、円柱状であってもよく、大きさも必要に応じて小さくしても大きくしてもよい。

【0014】側面を構成する側板2の頂部から約1cm

下の位置に側板4が水平に固定されている。ただし、側板4は側板2の頂部の位置に水平に固定してもよい。側板2及び側板4は多孔状またはネット状のステンレス板から形成する。図面では作図の都合上、一部のみを多孔状として描いている。図1は側板4の網目にリーマーが3本差し込まれた状態である。図示しないが、側板2の最下部に水平に底板を設けてもよく、また、最上部に開閉可能な蓋を設けてもよい。底板は容器の強度をあげるため、蓋は保管時のほこり除けのためである。そのため、蓋は穴のない板状のものである必要がある。

【0015】側板2の一箇所に縦方向にスロット8が形成されている。このスロット8から針金の取っ手10aが突出している。この針金10aは、例えば図2(a)に示すように、ピンセットの左右の足10bをU字状に湾曲させたような構造の高さ調節具10の一部である。本発明にとって必須ではないが、高さ調節具10の足の先端には耐熱・耐薬品の合成樹脂からなる滑り止め10cを接合することが好ましい。幅の広い容器用には、図2(b)に示すように、足10bをS字状に湾曲させた針金でもよい。更に、高さ調節具の水平を保つために、図2(c)に示すように、足10bを左右に曲げた後、その末端10dを垂直方向に延長させてもよい。この場合、側板2にはこの垂直末端部10dを収容してスライドさせるコの字又はU字状の溝12(図3参照)を予め形成しておく必要がある。この取っ手10aを箱んで力を加えると針金の左右幅が縮小し、滑り止め10cが側板2から離れるので、高さ調節具10の位置を変更できる。取っ手10aから手を離すと針金の弾力作用により針金はもとの幅に復元し、滑り止め10cが側板2に当たってこれを押圧するので、その位置で固定される。

【0016】図4の断面図に示すように、この高さ調節具10の上に中板14を置く。中板14は容器の縦溝とはほぼ同じ大きさの穴のない板である。中板14は、単に高さ調節具10の上に置かれているだけなので、高さ調節具10の位置変更に伴って上下の位置変更が可能である。

【0017】側板4から中板14までの距離が分かるよ*

* ちに、側板2には側板の位置を0として、下方に向かって数字が増える目盛16が刻まれている。

【0018】本発明の容器の使用法は次の通りである。まず、リーマー6の長さ調節のためには、側板2の目盛16を見ながら中板14を希望する高さに設定する。そのためには、上記した要領で、弾力針金の取っ手10aを手で握ったり離したりして位置を変更することによる。次にリーマーの足6bを側板の穴に差し込み足6bの先端が接触する位置にストッパーリング6cを固定する。

【0019】使用後のリーマーの消毒滅菌のためには、水洗だけを済ませてから、側板2の網目に差し込み、その状態のまま容器ごと一連の消毒滅菌工程、即ち、薬液消毒、超音波洗浄、オートクレーブ(高圧蒸気滅菌)を行なう。消毒後は、蓋をしてそのまま収納容器とする。

【0020】

【発明の効果】本発明によれば、使用時のリーマーの長さ調節設定および使用後の消毒・保管を一つのケースに入れたままで行なうことができ、便利である。さらに、使用する材料は、多孔状またはネット状のステンレス板や弾力針金であり、安価に製作できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例に係る収容ケースの斜視図である。

【図2】(a)、(b)、(c)は高さ調節具の実施例の斜視図である。

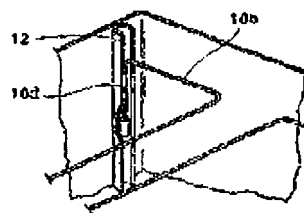
【図3】図2(c)の高さ調節具を使用する場合の側板の斜視図である。

【図4】図1のA-A断面図である。

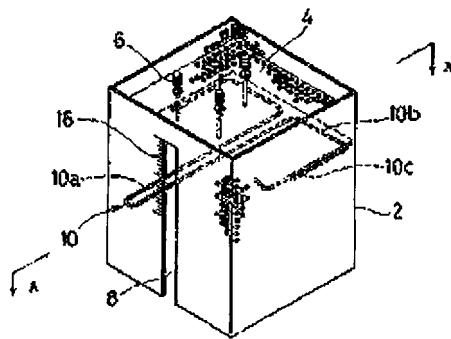
【符号の説明】

2	側板
4	側板
6	リーマー
8	スロット
10	高さ調節具
14	中板
16	目盛

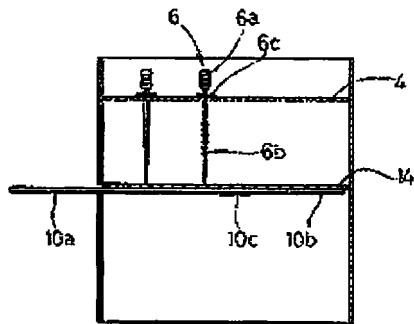
【図3】



【図1】



【図4】



【図2】

